

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

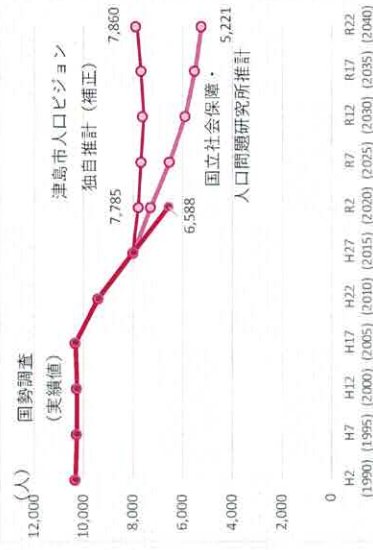
目的	本市が所有する学校施設の質的維持を図るとともに、財政支出の縮減と平準化を図ることを目的として策定する。
計画期間	2019年度から2058年度とし、原則として5年ごとに計画の見直しを行うことを基本とする。
対象施設	小学校8校、中学校4校、学校給食共同調理場2施設を対象施設とし、学校プール（付属室含む）、及び倉庫や機械室などの小規模な建築物を除く。

2. 学校施設の目指すべき姿

- ① 基礎的・基本的な学力の定着と個性を伸ばす教育環境の充実（学習空間の充実）
- ② 安心安全と衛生、環境に配慮した施設整備（生活空間の充実）
- ③ 地域の拠点としての施設整備（地域との連携の充実）

3. 学校施設の実態

◆14歳以下人口の今後の推移

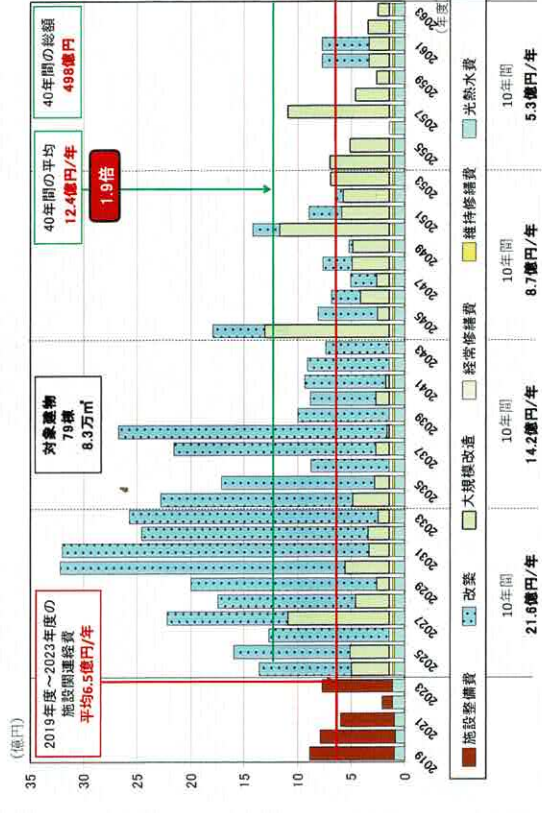


◆5年間の施設関連経費の推移

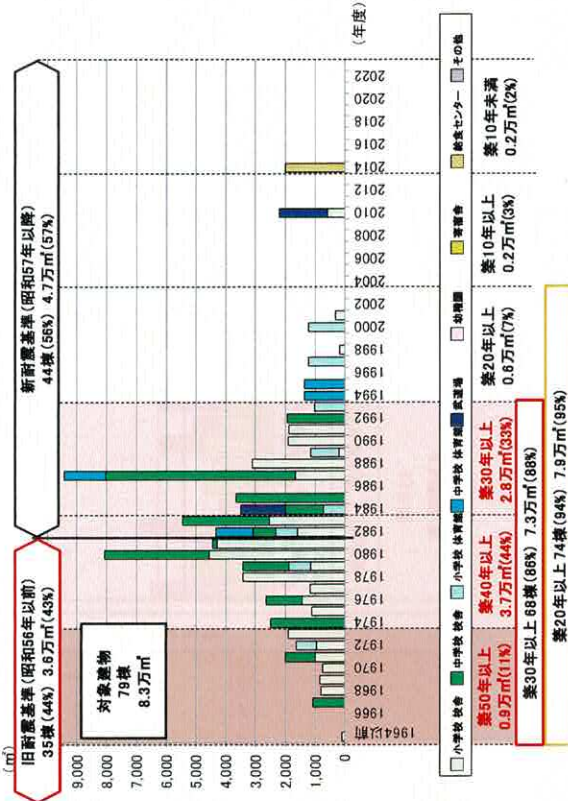
- ・5年間で平均6.5億円
- ・2019年度にエアコンを設置
- ・燃料費の高騰

◆従来型管理を行った場合の維持・改築コスト

- ・今後40年間で総額498億円（平均年12.4億円）発生



◆学校施設の年度別保有量



4. 学校施設整備の基本的な方針等

1) 基本的な考え方

- ・小中学校については地域コミュニティを維持するため、原則として現在の配置を維持する。
- ・児童・生徒数の減少に伴い、学校施設を他用途に活用する複合化の可能性を検討する。

2) 基本方針

- 1) 計画的な維持・更新
 - ▶ 改修を計画的に順次実施
 - ▶ 市内全体や各校単位で時期を調整し、年度別費用を平準化
 - ▶ 定期的に計画の見直しを行うとともに、教育環境の質的向上や社会的ニーズに対応
- 2) 施設総量・配置の最適化
 - ▶ 学校施設の長寿命化改修もしくは改築時に、地域施設との複合化や将来の児童・生徒数に応じた施設規模への縮小を検討
- 3) 公共サービスの効率化の推進
 - ▶ 民間活力や包括契約などによる充実した教育サービスの永続的な提供
 - ▶ 一部の施設や機能での部署横断的な一括管理など、合理的な方法や手段を採用

3) 今後の学校施設の活用方針

- ・他施設との複合化や減築等の施設規模の適正化を検討する。
- #### 4) 改修等の基本的な方針
- ・予防保全型の維持管理を行うことにより、施設の健全度を長期にわたって保ち、適切な教育環境の提供に努める。また、維持管理業務の包括発注など、費用の削減を図る。
 - ・中長期的な維持・改築等に係る総費用の縮減・予算の平準化を実現するため、適切な時期に大規模改修や長寿命化改修を実施することを前提に、すべての建築物の目標耐用年数を80年以上とする。
 - ・長寿命化改修の実施が適当と判断される施設については、建築後80年以上使用することを目標に、大規模改修を建築後20年と長寿命化改修後20年、長寿命化改修を建築後40年で実施していくことを基本とする。

5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

- ・長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみではなく、ライフラインの更新等により建物の耐久性を向上させるとともに、建物の機能や性能を確保する。

6. 長寿命化の実施計画

1) 今後の学校施設の改修等に関する優先順位付けの考え方

- (1) 改修等に関する優先順位付け
 - ・建築年数が40年を超えて、劣化が進んでいる建物から順番に、長寿命化改修を実施する。
 - ・劣化が進んでいる施設のうち、今後10年間に長寿命化改修を行わない施設は部位改修を実施する。
 - ・長寿命化改修にあたっては、財政状況を勘案した上で、教育環境の改善や社会的ニーズへの対応を図った、施設の複合化を行う。
- (2) 費用と改修時期の平準化
 - ・実施計画の策定にあたっては、年度別の施設関連経費の差が小さくなるように、各施設の改修や改築時期を調整する。
 - ・同じ学校の複数の校舎で同時に改修や改築が行われないように時期を調整する。

